



# 第12回自治体国際交流表彰（総務大臣賞） 受賞団体から学ぶ交流の取り組み

（一財）自治体国際化協会交流支援部交流親善課

もっと「国際交流」したい！でも具体的にどんな活動をすれば…と悩む方も多いのではないのでしょうか。

クレアでは、総務省との共催で、創意と工夫に富んだ国際交流の取り組みを表彰しています。2017年度は3団体が受賞し、本年5月、総務省において表彰式を開催しました。



前列左から成澤文京区長、奥野副大臣、大西高松市長、久保田浜田市長

### 【第12回（2017年度）受賞団体】 評価ポイント

- ◆文京区（東京都）  
参加者の自主性を促す青少年交流や、東日本大震災の復興支援と難民支援の双方向での支援が行われている点などが評価。
- ◆浜田市（島根県）  
人口5万人ほどの自治体が、30年にわたって技術協力をを行い、産業振興の支援へと発展させ、現在は相互理解を育む交流事業につながっている点などが評価。
- ◆高松市（香川県）  
ボナペティ事業や、城と庭園をテーマとした交流に基づく連携協定の締結など、ユニークで双方向性が進んだ活発な交流が評価。

ここからは受賞団体の活動をご紹介します。自治体や国際交流団体などの皆様が、より活発な交流を目指すうえでの参考となれば幸いです。

また、今年度も秋から募集を開始します。積極的なご応募を心よりお待ちしております！

## 文京区（東京都） 文京区アカデミー推進課

### 交流を深めて30年

文京区は、東京都区部の中心地に近く、江戸の面影を色濃く伝える歴史的なまちであり、多くの大学や学校のある文教の地としても知られています。カイザースラウテルン市は、ドイツ南西部に位置し、市内には、大学や研究機関が数多くあるほか、欧州最大規模の日本庭園や

広大なプファルツの森が憩いの場となっています。

両区市は、1988年3月に姉妹都市提携を結び、本年は、提携30周年という記念すべき年となります。これまで、公式訪問団の派遣・受入れや中高生のホームステイ生徒交換事業（派遣・受入れを1年ごとに実施し、期間は約2週間）、区民ツアーの実施など、民間交流を含めた相互交流を深めているところです。

### 困難に直面して絆を再確認

2011年に発生した東日本大震災の際は、同市より市民の皆様から預かった寄付金を被災地へ贈りたいとの申し出をいただきました。この時、文京区が仲介役を担い、岩手県釜石市に届けました。カイザースラウテルン市からの寄付金は、その後も続けられ、合計金額は約500万円にのぼっています。

他方、同市においては、中東の情勢悪化に端を発したヨーロッパへの難民流入のため、難民支援という大きな課題に直面していました。そこで、区は、東日本大震災の被災地支援の恩返しの意味も込めて、難民支援施設に対する支援のための寄付金の募集を区民、区内各団体に呼びかけました。その結果、2017年5月までに250万円を超える寄付が集まり、同市へ贈ることができました。

両区市が困難に直面したことをきっかけに相互支援の輪が広がり、自治体間に留まらず、市民同士の絆の強さを再確認することとなりました。



姉妹都市提携30周年を記念した区民ツアーにて、難民支援のための寄付金を贈る文京区長

## 浜田市（島根県）

浜田市観光交流課

## 伝統技術がつなぐ絆 子供たちの未来へ

浜田市は、島根県西部の中央に位置し、古くから山陰、山陽を結ぶ交通の要衝として栄えてきました。2005年10月1日には、周辺5市町村の合併により、新「浜田市」が誕生しました。

この友好交流は、ブータン王国で古くから受け継がれてきた紙すきの品質向上のため、30年前に旧三隅町（現浜田市三隅町）が、技術指導の依頼を受けたのが始まりです。当時の三隅町は、人口わずか8,900人。一自治体と一つの国が対等に交流することは非常に珍しいことでした。小さな町の「小さな国際交流」ではありますが、研修生を受け入れ、機材の贈呈など、今日のブータン王国の手すき紙技術の発展に大きく貢献してきました。

合併以後、両者の交流は中断していましたが、2013年、新浜田市として「友好交流に関する協定書」を締結しました。

現在は、手すき紙技術、美術教育への支援や三隅中学校とブータンの学校との文通などで交流を深めています。特に交流の広がりが出ているのは美術教育による交流分野です。

2017年からJICAの事業採択を受け、浜田市世界子ども美術館の職員が小学校を訪問し、折り紙を使ったワークショップを行っています。

また、ブータン王国教職員を招いて、日本の美術教育現場から指導方法を学ぶと共に、小中学校などを訪問し、各校で交流授業を実施しました。

民間から始まった草の根の交流が、次世代を担う子供たちの未来へと広がっていくように、今後も友好交流を続けていきます。



2015年ブータン東部の町タシヤンツェでの日本人技術者（奥左から4人目）による現地指導の様子

## 高松市（香川県）

高松市都市交流室

## ボンジュール! 広がる交流の輪

高松市は、日本で最初に国立公園に指定された瀬戸内海に面しており、古くから四国の玄関口として繁栄し、便利な都市機能とのおどかな田園風景がコンパクトに調和したまちです。

トゥール市との交流は、1986年に在大阪フランス総領事や香川日仏協会の紹介もあり、市長がトゥール市を訪れたのを契機に始まり、相互訪問により理解が深まったことなどから、1988年から姉妹都市交流が始まりました。

姉妹都市提携以来、人事交流を始め、節目の年には周年記念事業を開催し、相互の公式訪問や親善研修生の派遣など、幅広い交流を通して友好親善を深めてきました。

近年は、新たに食や城と庭園をテーマとした交流が始まったほか、学校間の提携など、人的交流から教育・経済・文化などの分野へと交流を発展させ、市民レベルでも交流の輪を広げています。

食の交流では、2009年に、トゥール市からチーズ職人を招いて小学生を対象とした食育講習会を実施したほか、2011年には、小学生が野菜の種子を相互に交換し、育て、調理することで、国際理解を深める「ボナペティ事業」などを実施しました。



史跡高松城跡玉藻公園、ヴィランドリー城、トゥール市3庭園連携協定締結の様子



チーズ職人による小学生への食育講習会締結の様子

また、2016年には、史跡高松城跡玉藻公園、ロワールの古城の一つであるヴィランドリー城、トゥール市3庭園の間で、城と庭園の管理などについての知識・技術の共有及び相互の交流を通して理解と友好を深めることを目的とした連携協定を、ヴィランドリー城において締結しました。

ますます交流の輪が広がるトゥール市と、今後も、相互の発展につながる姉妹都市交流に取り組んでいきます。